

Relationship between serum fibroblast growth factor-23 level and mortality in chronic hemodialysis patients.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清水, 比美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31327

主論文の要旨

Relationship between serum fibroblast growth factor-23 level and mortality in chronic hemodialysis patients.

(長期血液透析患者の血清線維芽細胞増殖因子-23 と死亡率の関係)

東京女子医科大学内科学 (第四) 教室

(指導: 新田 孝作教授)

清水 比美子

International Urology and Nephrology 46(1): 99~106, 2014

【要旨】

線維芽細胞増殖因子-23 (FGF-23) は、慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常 (CKD-MBD) おけるリン代謝の調節因子である。本研究の目的は、維持血液透析 (MHD) 患者における血清 FGF-23 濃度と死亡率の関連を評価することである。外来 MHD 患者 92 名を対象とし、血清 Alb、Ca、P、iPTH、FGF-23、CRP を測定し、性別、心血管疾患 (CVD) の有無を含め死亡率との関連性を検討した。血清 FGF-23 値は、Ca、P、Ca×P 積、iPTH 値と有意に関連していた。しかし、FGF-23 値が死亡の予測因子となったのは、血清 P 値 6.5mg/dl 以上の群のみであった。さらに、女性群でのみ FGF-23 値の 2 分位での高値群が低値群と比較して CVD イベントが有意に多かった。CVD の既往の有無および FGF-23 値の 2 分位を組み合わせた 4 群で比較した Kaplan-Meier 分析では、CVD 既往のある FGF-23 高値群で最も死亡率が高かった。よって、MHD 患者における血清 FGF-23 値と死亡率の関係において、性別や CVD の既往が修飾因子となる可能性が示唆された。